

## 「オオマタの花植え」



オオマタ集落のおなごてい（女の  
人たち）の活動として、「火の用心  
当番」のほかに、春の「花植え」が  
ある。集落の入り口にある集会所の  
前に、花を植える作業だ。昭和村の  
なかでも標高の高いこの場所に桜が  
咲くのは、だいたい5月の連休で、  
その桜が終わる月末のころに「花植  
え」は行われる。

私が「花植え」の係になって、今年で3年目になる。前の担当だった姉さまが亡く  
なって、私が引き継ぐことになった。その時期が近づくと、まず隣の家のテルコさん  
に相談して日にちを決める。「その日でいいべー」と言われると、安心して残り5軒  
へ伝えにまわる。次にすることは、花苗と土を買いにホームセンターに行くこと。こ  
の苗選びも、なかなか簡単ではない。彩り、大きさ、値段を吟味することはもちろん、  
なるべく去年とは違う、新しいものを選びたい。もうひとつ、忘れてはいけない大切  
な買い物がある。それは、花植えを終えた後の「いっぷく」用の、お茶とお菓子。姉  
さまたちがあまり食べつけない（食べられない）ものでも良くないし、だからと言っ  
ていつも食べているものではつまらない。苗もお菓子も、姉さまたちに喜んでもらえ  
るものにしなければという（勝手な）プレッシャーを感じ、やたらと時間をかけて選  
んでいるので、荷物持ちに付き合ってくれる夫はいつも待ちくたびれている。

私が花植え係になってから、変わったことがひとつある。それは、プランターに  
入れる土を、リサイクルすること。それまでは、園芸用の土を毎年10袋以上もホー  
ムセンターから買っていた。はじめて買出しに行ったとき、重たい土を車に乗せたり  
おろしたりすることが、あまりに重労働であることに驚いた。誰が係になっ  
てもこれを続けていくのは大変だと思  
ったし、土を一年で捨ててしまうの  
はもったいないと思った。姉さまた  
ちに話してみると、そのことへの思い  
はみな同じ。話し合いの結果、前年使  
った土と、新しい土3袋くらいを混ぜ  
て使っていくことになった。



花植え当日。注意しなければならないのは、「集合時間を真に受けてはいけない」  
ということ。姉さまたちは、必ずその時間よりもだいぶ早くから集まってくる。時間  
ちょうどに着いたとしても、誰に責められるわけでもない。ただ、若輩者の私が最後  
の一人になるわけにはいかないという、これまた勝手なプレッシャーがある。係になっ  
てからというもの、苗や道具を運んだりもしなくてははいけないので、もちろん早めに  
集合場所に行くのだけれど、毎年誰か一人はもうやって来ている。



みんな集合して、いよいよ花植えの  
はじまり。「花、きれいだなあ、ヨウ  
コちゃん、選ぶの上手だ」と言われ、  
めちゃくちゃうれしい。姉さまたちは  
慣れたもので、どんどん作業を進めて  
いく。私は主に「オカマワリ」。姉さ  
またちが作業しやすいように、次に必  
要なものを運んだり、使い終わったも  
のを片付けたり、足りないものを家に

取りに行ったりする。係1年目のときは、準備不足だらけで、何度家と集会所を往復  
したことか。一人汗だくだった。

花植えはだいたい1時間くらいで終わり、その後はいっぷくの時間。残ったお菓子  
を持ち帰れるように、事前に一人ずつ袋に分けていたものを渡すと「なんだ、こんな  
手間かけてくっちゃのか(かけてくれたのか)」と。姉さまがお菓子を食べながらおしゃ  
べりに興じる姿を見て、今年も無事できたなあとほっとする。そしていま改めて思う  
のは、姉さまたちは、私のつたない仕事を上手にほめて、労ってくれているんだなあ  
ということ。

その場所を通るときには、必ずプランターを見る。いつもうれしい気持ちになる。  
お花がきれいに咲いていることもそうだけれど、「みんなで植えたんだ」ということが、  
なんだか少し誇らしいような、そんな気持ちになる。来年も張り切って、花苗とお菓  
子を選びたい。